

一度は諦めた 弁護士の夢 かなえた

山形市の栗野和之さん(65)は東日本大震災後、司法試験に再び挑み、3年前に63歳で合格した。大学在学中の初受験から40年以上が過ぎ、二十数回目で念願かなった。

自宅のパソコンで自分の受験番号を見つけて、グッと拳を握りしめました。

中学生の頃に見た海外ドラマがきっかけで、弁護士に憧れました。大学卒業後も家庭教師の傍ら、司法試験を受け続けたが不合格。母親の説得で、30歳を過ぎて裁判所に就職しました。

東北各地や東京の裁判所を転々としながらキャリアを重ねた。震災当時は仙台地裁の会計課長だった。

あの日は、地裁5階の部屋で報告書をまとめていました。小さな地震響きが徐々に大きくなり、激しい横揺れが来た。壁の収納庫から書類が滝のように落ち、机の上にあったプリンターが床に転がっていました。

その夜、停電した仙台市中心部は電灯も信号の明かりも消え、満天の星が見え

栗野 和之さん 63歳で司法試験合格を辞めた裁判所職員



ました。同僚の携帯電話でテレビ放送を見て、沿岸部の惨状を知りました。

震災から1カ月が過ぎ

予定の裁判は全て延期され、復旧作業に追われた。会計課では、県内の裁判所の被災状況をまとめる必要がありました。ただ私自身は会計業務の経験が浅く、公共交通機関が止まってベテラン職員たちは出勤できない。見かねた高裁の職員が車を手配し、県内の被災状況の確認に回ってくれました。やるべきことがほとんどできず、苦い経験ばかりが残りました。

た。自宅の都市ガスが復旧する際、出会った光景に心を動かされた。復旧作業に来てくれた人たちの作業着が、色もロゴもバラバラでした。全国各地から集まったガス会社の人たちが、即席のチームを組んだのだと思います。困っている人のところに駆けつけ、自分ができることをやる。元々は、こういうことをやりたかったんだと思いました。



昨年11月に開所した栗野法律事務所。事務員は雇わず、全ての業務を一人でこなす

栗野和之(あわの・かずゆき) 1955年、山形県鶴岡市生まれ。中央大学法学部卒。裁判所職員を経て、2019年に弁護士登録。山形市内に一人暮らしで、趣味は旅行。「旅先の飲み屋では、いつの間にか常連さんと親しくなってしまう」という。

私をかえた3.11

あのとき何もできず 次は寄り添う番